

第1回 南あわじ市総合計画審議会 議事要旨

【日時】

令和3年7月27日（火）10：00～11：30

【場所】

南あわじ市役所 第2別館3階多目的ホール

【出席者】

委員：18名（五十音順）

相野委員、市川委員、樫本委員、柏委員、片山委員、清川委員、草地委員、久保委員、小磯委員、
武中委員、立花委員、出口委員、中尾委員、登里委員、原委員、飛田委員、眞野委員、森委員

南あわじ市

市長

事務局：4名

総務企画部付部長（企画担当）、ふるさと創生課長、ふるさと創生課担当2名

事業者：2名（総合計画策定支援業務受託者）

【議事要旨】

1. 開会

事務局から開会の言葉

2. あいさつ

守本市長よりあいさつ

3. 委嘱状交付

委員の委嘱が行われた。

4. 自己紹介

名簿順に、自己紹介が行われた。

5. 総合計画審議会の運営について

事務局より、南あわじ市総合計画審議会の運営について説明が行われた。

○審議

一 同：質問なし

6. 会長及び副会長の選任について

事務局案に基づき、会長に原委員、副会長に登里委員が選任された。

原会長より、あいさつ

7. 諮問について

市長より、原会長に対して諮問が行われた。

8. 報告事項

報告① 後期基本計画策定方針について

事務局より、後期基本計画策定方針について説明

○審議

一 同：質問なし

報告② 南あわじ市の概況について

事務局より、南あわじ市の概況について説明

○審議

委員：地域間移動について、「転入」と「転出」がどちらも多い年があるが、その理由は何か。

事務局：理由について詳しくは分からないが、これまでも淡路市から本市へ移動する例がみられた。

その方の状況に応じて、島内での移動が多い年があったのではないか。

委員：島内3市の比較が時々出ているのはなぜか。国や県とも比較しているようだが、島内3市だどどの市も同じような印象を受ける。

事務局：洲本市、淡路市と比べると、南あわじ市がどうなのか分かっていただくために比較をした。島内3市は同じような人口構造や産業形態だが、これに比較するとすれば、人口が5～6万人程度で農業が盛んな地域と比較すると分かりやすかった。今後、資料を調整する上で、検討したい。

委員：資料p.25の「歳出」ところで、計画が始まった平成29年度から市長が「子育て」に力を入れている中で、民生費も増えているが、南あわじ市は日本の中でも農業の就業率が高い。農林・水産業について令和元年のデータはあるが、令和2年度も分かっている範囲で知りたい。

事務局：令和2年度については決算の最中であるため手元にないが、令和元年度より上がっているのではないか。令和2年度は新型コロナ関連の事業が多くあり、比較にならないかもしれないが、やはり「農林・水産」と「教育・子育て」は令和元年に比べ多くなっていると思われる。これも、市長が掲げる「子育てしやすい環境」によるものである。歳入についても、令和2年度は、令和元年に比べ「ふるさと納税」が好調である。令和2年度の財務状況も変化しているのではないかとと思われる。

委員：令和2年度の「ふるさと納税」は非常に高くなっているが、施策は何か行ったのか。

事務局：ふるさと納税については色々な要因があるが、1つは「新規返礼事業者」が多く加わっていただいたことが大きいのではないか。令和2年はコロナで、いわゆる「巣ごもり需要」が増えた。そういった効果もあるが、やはり、新規事業者の増加が大きいのではないかと考えている。

委員：これからも、「住みよい南あわじ市」を島外にもPRして、ふるさと納税をしていただきたい。

委員：農業と漁業は後継者が減っているが、売り上げは減っていない。これを「生産性が上がっている」とみて良い方向とするか、後継者が減っていると考えるか、計画を立てる上で大きく

変わってくるのではないか。生産性を上げて、かつ後継者を見つけるような政策があっても良いのではないか。

事務局：就業者は減っているが、生産性は上がっている。ただし、実態として生産額は減少傾向にある。多少は縮小しているのではないか。このあたりもしっかりと分析して、審議会で示したい。

委員：5年先になると、農業の後継者が少なくなるのではないか。若い人の指導を行い、高齢者がそこで働けるような状況にしていきたい。そして、関係機関との連携も図っていく。南あわじ市は土地がすごく良く、農業生産にも効果がある。これからの5年間は「変わる時期」だと思うので、それぞれの関係機関との連携を持ってもらいたい。

事務局：指摘のとおり、色々な分野で新しい所があるので、特に本市の基幹産業である「200億円を超える農業」を衰退させないように、継続させていきたい。そのほか、漁業も含めて色々な産業の所で、審議会の協力もいただきながら考えていきたい。

委員：農業に関して、農業人口が減っているにもかかわらず売り上げは減っていない。これには、機械化が進み、結果、生産者当たりの生産額が増えたのではないか。南あわじ市や洲本市などでは、変革の時期を迎えている。そこには、インターネットや明石海峡大橋の通行料が安くなったことがあるのではないか。以前は、フェリーを使っていたが、今は、都市に農産物を運ぶ「都市近郊型農業」になってきた。全国を相手にする農業も可能になった。また、スーパーなどで直接野菜を販売する直売方法も出てきた。農業が多様性に富むようになった。農業の問題はあるが、そのことはいずれ考えたい。かつては、農家が継続して農業を営んでいたが、今は多種多様な経験が、農業に活用できる。非常に多様性に富むようになっている。農業も多様性を高めてほしい。

事務局：色々な課題がある中、就農希望がある若い世代に南あわじ市の農業に魅力を感じてもらえ、また、現存の農業者が誇りを持てるようにしっかりと分析をし、審議会においても議論いただきたい。

報告③ 前期基本計画の自己評価について

事務局より、前期基本計画の自己評価について説明があった。

○審議

委員：アンケートが7月13日の締切で、9月の審議会でお知らせするとの事であったが、アンケートは「回収率が上がらない」という苦勞もあったのではないか。回収率は、半分くらいか。

事務局：3,000人に配布して、回収率は最終的に52%となった。

委員：魅力あふれるまちづくりの「地方移住に対する意識の高まり」に関して、関係人口に関する施策はあるか。

事務局：関係人口の部分は、観光施策やコロナ禍で生じた場所を選ばない「テレワーク」の拡大で、色々な施策に取り組んでおり、こうしたことを通じ、将来的には移住・定住にもつなげたい。

委員：自己評価は個別のデータを出してもらわないと、次の策定に反映できないのではないか。個別のデータも出してもらいたい。

事務局：個別のデータもあるが、今回はまとめて概要とした。

委員：この中で重要なのが、「遅れが生じる分野」であり。それに対して、分析をしっかりしていた

だきたい。「このままでは目標達成が難しい」がゼロとなっているが、計画を立てる上で、達成が難しいという事もあるのではないか。分析の甘さはないのか。

事務局：自己評価の中は、13項目に対する評価である。中身の細かいところについては、個票で内容の説明をさせていただきたい。これについては、市民意識調査でも同様のことを調査している。項目を反映させ、改めて次回の審議会で説明をしたい。

報告④ 市民意識調査の実施について

事務局より、市民意識調査の実施について説明。

○審議

委員：「ひきこもりの方がどのくらいいる」という統計データはあるか。

事務局：具体的な数字は把握していない。福祉計画も策定している為、福祉課に確認して次回報告する。

委員：ひきこもりの方が多いかと思い、そういう方が活発に動けるようにしたいという意識があり、質問をした。

市長：引きこもりの把握を以前から行っているが、なかなか十分にできていない。現在、自殺対策や貧困対策、独居老人など縦割り分野の対策はあるが、今後は横のネットワークを作る。例えば、介護関係で80～90歳の老人の所に行くと、そこに50歳代の引きこもりの方がいる。いわゆる「8050問題」である。どうやったら発見できるか、ネットワークづくりや引きこもりを把握する取組も始めている。現在の人数のデータはないが、そういう方を発見して福祉のネットワークにいれるという取組も考えられる。

委員：県や民生委員でも引きこもりの調査をしたことがある。県からどのような調査結果がきているか知りたい。

事務局：福祉課にも確認して、次回説明する。

9. その他

その他① 総合計画審議会開催スケジュールについて

事務局より、今後のスケジュールについて、説明

○審議

委員：審議会の開催の時間はいつになるのか。

事務局：委員の意見を踏まえて調整する。

10. 閉会

登里副会長より、あいさつ